

会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	第3回たかまつ創生総合戦略懇談会
日時	平成27年9月7日(月) 18時30分～19時35分
開催場所	高松市役所 13階 大会議室
議 題	(1) たかまつ創生総合戦略(仮称)の検討について (2) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員 (22名)	佃会長、野田副会長、上田委員、上原委員、国見委員、 桑井委員、桑村委員、坂口委員、佐野委員、白薊委員、 鈴木委員、高嶋委員、竹内委員、徳倉委員、中橋委員、 西岡委員、原委員、藤本委員、古川委員、眞鍋委員、柳 委員、頼富委員
傍聴者	2人 (定員10人)
担当課及び連絡先	政策課 839-2135

会議の経過及び結果

(1) たかまつ創生総合戦略(仮称)の検討について

事務局から、取りまとめた人口ビジョンと総合戦略の素案について説明し、委員から意見をもらう。

(委員)

たかまつ創生総合戦略の「就業環境の充実」というところが、切って貼ってきたというような感じを受ける。「ワーク・ライフ・バランスの考え方に基づいた職場環境づくりに取り組みます」とあるが、これだと取り組まないまま終わってしまう。

管理職の風土、意思決定権者のところを変えていかなければ、組織は変わらない。働き方を変えることは少子化対策にそのまま直結しているということが国の資料からも出てきている。

ワーク・ライフ・バランスをどのように推進していくのか、もう2歩ほど踏み込んでいく必要がある。管理職や経営者の意識を変えていく作業を市が中心となって取り組んでいくことで、始めて環境が全体的に変わるのではないかと思う。

(副会長)

女性は、就職や結婚で、外から入ってきたり、出て行ったり、移動が多いのではないかと思うが、女性が住みやすく、子どもを生み育てていく環境整備が必要である。女性の定住や雇用についての数値データはどのようになっているか、お聞きしたい。

(事務局)

人口ビジョンでは、年齢階級別・男女別の人口移動の状況を整理した資料を掲載しているが、特に女性に焦点を当てた数値はこの資料上では整理できていない。

会議の経過及び結果

(副会長)

女性が住みやすくなるまちづくりという項目も必要ではないかと思う。

(委員)

事前に意見を出したが、この資料の中で、どこに反映されているのか、或いは市ではその意見を採用できないということか、その辺りの見解をお聞きしたい。

また、男女共同参画の部分についても意見を出したが、結局、男中心社会をどう克服していくか、長時間労働の問題も含め、口だけの施策になってしまっているといけない。

私ども労働組合の中でもいろんな意見交換がなされており、ぜひ市においてもその辺りについて具体的な施策を展開していく必要があると思う。

(事務局)

資料6には懇談会委員の意見から想定される事業を整理している。

これらの事業の中からどれを総合戦略に反映していくかについては、今、検討中であり、ぜひとも、これはというものについて、ご意見としていただければと思う。

本日はお配りしていないが、事前にいただいた意見を無記名で、一覧の形で配布することはできる。

(会長)

皆さんの意見は、共通に理解しておいた方が良いため、無記名でお配りした方が良く思う。それで共通認識をしていき、それがどのように計画に盛り込まれたかということについては、個別に説明をお願いしたい。

(委員)

基本目標の「子どもを生み育てやすいまちを創る」というところで、「子どもを生み」というところの政策が十分ではないように思う。合計特殊出生率の目標である1.86というのは、30年前と同水準で、非常に困難な数値であると思う。

もっと配偶者を持って子どもを生むというところに重点を置いた施策を立ち上げて欲しい。

(会長)

配偶者を持つという部分の施策を考えていただきたい。

(委員)

出生率を上げるという目標はよく見るものの、子どもが3人欲しいが、経済的な面とか保育所が足りないことで、実際は1～2人になっていることがある。また、女性が働きたいが両立が難しいとの意見も聞く。

人口目標の裏づけはあるのか、或いはただの仮説なのかが知りたい。

また、以前、研修で行った海外では、経済的状況にとらわれなくて、子どもたちが自然にいつでも文化に触れられるような環境になっており、感銘を受けた。文化芸術の分野でいろいろな施策は出ているが、そのような環境になるのか知りたい。

(事務局)

目標値が仮説なのかという点について、施策が実施できたならば、効果が出て36万人につながるという積算があるわけではない。

香川県が2060年の段階で、このままいけば現在の98万人ほどの人口が60万人になるという推計を、施策を講ずることにより76万人にするという目標を示している。高松としては県内における都市としての力や責任を考え、香川県の平均値よりは、やや高いところを目指すべ

会議の経過及び結果

きである、という考え方に立っている。また、現在の出生率が平均と比べて0.06高いという水準にあるため、それを維持していくということで36万人として置いている。

具体的な施策としては、特に子どもを生み育てるという部分について、子どもの医療費の助成や、現在検討中ではあるが、保育所・幼稚園への経済的な負担の軽減、小学校等に通学している子どもを預かる仕組みの拡充の検討を進めている。

また、文化芸術の関係で経済的な面にかかわらず、触れられる環境づくりが必要ではないかと感じる。今現在それに関する具体的な取組について説明はできないが、こういった施策が可能か、関係者と協議したい。

(委員)

総合戦略に位置づけられた個別事業について、完成版に当たっては主な事業一つ一つに何らかの事業の説明が付けられるのか。また、今回ここに並べられた事業について、どれが新設・改善された事業で、どれが既存事業なのかを明確にした方が議論しやすいと思うので、お聞きしたい。

(事務局)

個別の事業に対する書き込みは予定していない。

また、記載している事業については、毎年度、行政評価システムで各担当課が評価をしながら進めている。効果の有無はしかねるが、いずれにせよ、既存の事業だけを抜き出して記載している。資料に空欄の部分があるが、事業として取り組む想定はあるが、まだ書き込めていない状況にある。

(会長)

新しい事業を盛り込んでいかないと少し難しいのではないかとと思うので、検討をお願いしたい。

(委員)

そもそも45年後に高松はあるのか。恐らく明治時代以降、45年というスパンをとって同じ高松のエリアだったことはないと思う。

そう考えると、今の高松はないと思われる。もしかしたら広がっているかもしれないし、狭くなっているかもしれない。また、インフラが整備されたら四国に支店を置かない会社が多く出てきて、大阪から通うということも出てくるかもしれない。

一步引いた部分の政策、香川全域のことを高松が視野に入れて政策を行っても良いと思うし、高松でしなくても良い事業が出てくるかもしれない。そのような前提の部分に切り込んでいったほうが、面白いのではないかと思う。

(委員)

人口ビジョンの資料を見れば、理想的な子どもの数として2人ないしは3人と答えている方が非常に多いが、データを見ると、理想的な子どもの数より少ない。

やはり、経済的な理由で子どもを希望する数まで生まない、或いは1人も生めないということなので、経済的な支援は国や県の施策待ちとなってしまうが、国や県に働きかけつつ、先行して市単独で経済的支援の枠を広げていかないと、目標とする合計特殊出生率には近づけないと思う。財政的に難しいのも分かるが、3人目を妊娠したが育てられないので墮胎をしてしまうということが多くある。例えば、そういったケースに対応する相談窓口を独自に設けたり、子どもを持ちたくて持てない夫婦に対する支援や、里親の斡旋などで、生まれてくる子どもを増やす、また、その生まれた子どもが健全に育っていくような市独自の支援をして欲しい。

会議の経過及び結果

(委員)

コンパクトシティの議論になったときに私の中で、テーマになっていることがあり、「ジェントリフィケーション」という用語がある。何かというと中心市街地に人をコンパクトに集めていくと地価が上がっていくため、中心部に貧しい人が住めなくなることに伴い、若い世代や子育て世代は外に拡大をしていくという現象が起きる。

高松の街中で若い世代が緑地とか公園で子育てするときに、玉藻公園は有料であるし、文化に子供が触れるといっても、漆や盆栽や庵治石は裕福な人達の文化である。特に小さな子どもが文化や緑地などの豊かさに触れられる環境が必要である。

ヨーロッパだと公園やスポーツ施設が全部無料であり、音楽イベントは全員が無料で享受できる。このような場所が提供されていることは都市の暮らしの中で豊かなものを提供できているということなので、このような視点を盛り込むと良い。

(委員)

女性が社会進出し、仕事を続けていくと、出産のチャンスと仕事のキャリアの時期が重なるため、婚期の機会を延ばしてしまうことがある。これにより、婚姻の年齢が上がると、子どもの数が現実的に少なくなる可能性がある。

私が地方に移住した理由は、地方は子育てをしやすいと思ったためである。移住者であり、こちらには親戚も身寄りもないが、特に年配の方が面倒を見てくれるという話を聞き、地方で移住者であっても結婚し、子どもを生み育て、ワーキングママとして働きたいという展望があり、こちらに来た。香川の場合は婚姻の年齢が少し早く、その後のキャリアがまだまだ作れると思うので、その後のキャリア支援を5年、10年していけば、女性がもっと仕事を選んでキャリアを積み、30代以降で結婚できるという事例が増えていくと思う。

2点目として、「婚活」となると行きにくいと感じる。香川は市民団体によるイベントが多くある。私が関与している市民団体のイベントからもカップルが成立している。ボランティアとしてイベントの中に入っていくと、自然に出会える状況になるのではないかなと思う。

3点目であるが、Uターン・Iターンは、やった人にしか分からないので、私のようなUターン・Iターン者をうまく使ってもらい、HPに載せるなどして、Uターン・Iターンを検討している方の後押しになればと思う。

(会長)

実際の移住の経験を基に、Uターン・Iターンの暮らし見える化をしていけば良いのではないかな。

(委員)

いろいろな意見をまとめていく上で資料が作られたのだと思うが、いくつかの方向性があるが、それらを重ね合わせるところに解決策があるのではないかな、それが今は逆に見えにくくなっているのではないかなと思う。

例えば、高松市の場合はアート（芸術）があるが、単なるアート（芸術）の振興だけではなく、先を見据えるならば、ビジネス化・産業化していくなり、子供の環境に生かすなり、色々なシナジーが見込まれるため、重なるところをどう強化するかである。

今夏にロサンゼルス・バンクーバーに調査に行った際、バンクーバーでグランビルアイランドというところがあって、そこには考えられるありとあらゆるものがある。単なる観光だけではなく、観光から産業、教育、子育てまで含めた色々なものが相対的に狭いところに集まっている。

会議の経過及び結果

グランビルアイランドは、日本の香川・高松にとっても総合的に参考となる象徴的な空間であった。そうした一見するとバラバラになってしまっているものを、総合的に重ねて取り組んでいくという発想をすれば、面白いヒントが見つかるのではないかと思う。

(委員)

私の事務所では、3人の従業員がおり、全員女性である。子育て世代の方に短時間労働を推進することから、あえて時給にして欲しいという方もいた。雇い主と労働者がしっかりと折り合いをつけて、きちんと働きやすいような形になれば良い。結局、多様な働き方ができるということにもう少し働きかけていけば、働きやすい環境になるのではないかと思う。

(2) その他

(事務局)

今回の第4回目の懇談会は9月25日(金)を予定している。本市の人口ビジョン、総合戦略については、10月末までの策定を目指していることから、次回、懇談会としては区切りをつけたいと考えている。原案に対する考え方をある程度示したいと考えている。

(会長)

これから事務局の方で原案を作成してもらうことになるので、何かご意見がある方は早めに事務局のほうに出しただければと思う。

(閉会)